

「薪」王国信州の 確立を目指した取組

－「薪談義」と「薪セミナー」を開催－

近年、石油価格の高騰、スマートハウスの普及等を背景に、農山村では一般家庭向けの暖房用に薪ストーブを用いる家庭が増大しており、また、都市部では本格的な薪釜を備えたピザ屋が相次いで新規開店するなど、薪の需要量が年々増加しています。

一方で、薪の全体的な消費量や流通状況などの実態は必ずしも明らかにしておらず、供給者（生産者・販売者）と需要者との結びつきが途切れている現状にあります。

中部森林管理局では、長野県が首都圏、中京圏から約100kmという立地的に配送条件が整っていることに加え、土地代が安価で薪を6ヶ月から1



薪談義の会場の様子



薪セミナーの会場の様子

年間乾燥をさせる広大な敷地を確保することができ、産業として成り立つ要素が大きいため、供給者と需要者を結び機会をつくり、再生可能なエネルギーの一つとして「薪」の利用を促進し、併せて、農山村の身近な産業として薪の生産拡大を図るため、今回、長野県との共催により、「薪談義」と「薪セミナー」を開催しましたので、その概要を紹介します。

「薪談義」を開催

平成25年2月17日(日)、長野県塩尻市で開催された「森林フォーラム」の併催行事として「薪談義」を新王国信州の

2/17開催「薪談義」でのパネラー

- ・ 杉山 博雅氏 (週刊チャコールタイムス 代表主幹)
- ・ 辻 潔氏 (日本林業調査会 代表取締役社長)
- ・ 鈴木 信哉 (中部森林管理局長)

4/22開催「薪セミナー」でのパネラー

- ・ 廣瀬 直之氏 (東京燃料林産株式会社 取締役社長)
- ・ 滝本 期一氏 (株式会社 高善商会 取締役会長)
- ・ 木平 英一氏 (株式会社 DLD)
- ・ 松尾 秀樹氏 (薪の松尾)
- ・ 鈴木 信哉 (中部森林管理局長)

確立」を開催したところ、薪問屋、薪ストーブ業者、素材生産業者など約60名が参加し、身近な暖房、燃料である薪について活発な意見交換が行われました。(写真1)

意見交換に先立ち、週刊チャコールタイムス代表主幹の杉山博雅氏から、薪の規格と最近の市場情勢についての報告がなされました。

続いて行われた意見交換では、パネラーから以下のような発言がありました。

- ・ 薪ストーブの販売台数は、最近の2箇年で3倍と好調であるが、薪の生産が追いつかない状況。
- ・ 都内のピザ屋は月に18店オープンし

ているが、そのうち7店が薪を使用している。信州は首都圏、中京圏からいずれも百キロ圏内にあり、大消費地への薪の供給が可能。

・薪の供給者と需要者がお互いを知らず、需給のミスマッチを起こしている。

また、参加者からは、「需要はもっとあるはずだが、流通が見えず直接販売することができない」、「燃料業界と生産者の接点がない」など、供給者と需要者の結びつきをどう図っていくか、薪の規格の統一化など、市場のニーズに合わせた供給体制の整備が課題であることなどが意見として出されました。

■「薪セミナー」で意見交換

先に開かれた「薪談義」では、薪の供

給者と需要者の間での情報交換不足が明らかになったことから、4月22日(月)に「薪セミナー」新王国信州の確立を目指して「」を開催しました。

同セミナーでは、東京や名古屋・神戸からの流通問屋を含め約80人が出席する中、供給者と需要者の双方による事例紹介と意見交換が行われました。

(写真2)

まず、需要者の代表として、東京燃料林産(株)の広瀬直之氏及び(株)高善商会の滝本期一氏より、流通消費の現状、課題及び供給側への期待等に関する報告がありました。

次に、供給者の代表として、(株)LDの木平栄一氏及び「薪の松尾」の松尾秀樹氏より、長野県内における薪の生産・販売の現状及び課題に関する報告がありました。

写真4 薪の生産現場

続いて行われた意見交換では、パネラーから以下のような発言がありました。

- ・ 薪には樅、雑薪、製材薪の3種類があるが、それぞれ特色があることから用途も異なる。また、暖房用と調理用では、求め

られる品質は同じではない。

- ・ 薪の大きさが生産者により異なるため、需要者から不満が出る場合がある。

- ・ 針葉樹の薪は広葉樹に比べ乾燥が容易。また、スギ、ヒノキであれば、薪ストーブの使用で汚れや脂で問題になることはない。

- ・ 冬の長い寒冷地では、年間の灯油代より安くつく場合もある。ホテルでは薪と炭の併用がみられる。

- ・ 薪の運搬、納品後の保管では、木クズが散乱する、虫等が厨房に持ち込まれる等の問題もあり、品質維持には産地の協力が欠かせない。

- ・ 働きたい高齢者は増えており、そうした人材を活用して薪生産が地域の産業になることが望ましい。

- ・ 山村の高齢化が進む中、境界の明確化を含め原木の安定供給体制の確立が課題。

■終わりに

今回の「薪セミナー」では供給者・需要者間での情報交換が熱心に行われましたが、一方で薪は長期間乾燥が必要のため、広大なストックヤードの確保や原木の安定供給体制づくりなど、新たな課題も明らかになりました。(写真3、4、5、6、7)

中部森林管理局では、長野県との連

携の下、引き続き「薪」についての各種情報の発信に取り組みとともに、「薪」を含めた木材の安定供給に努めて参ります。



写真5

陶芸用アカマツ薪のストック状況



写真6

端薪のストック状況



写真7

薪の生産現場